

水稲用 初・中期一発処理除草剤

エンペラー[®]

1キロ粒剤 豆つぶ[®]250 ジャンボ フロアブル



ノビエ



ホタルイ



オモダカ



※1キロ粒剤・フロアブルのみ



皇帝の品格

- 有効成分エフィーダ[®]（一般名フェンキノトリオン）を配合
- 3成分で問題雑草をワイドに除草
- スピーディーな除草効果
- 水稲に高い安全性



エフィーダ[®]配合
問題雑草に広く効く!!

※商品画像はイメージです。®はクミアイ化学工業(株)の登録商標



- 有効成分：ピラクロニル………2.0% (1キロ粒剤)、8.0% (豆つぶジャンボ)、3.7% (フロアブル)
ピリミノックメチル…0.75% (1キロ粒剤)、3.0% (豆つぶジャンボ)、1.4% (フロアブル)
フェンキトリオン………3.0% (1キロ粒剤)、12.0% (豆つぶジャンボ)、5.6% (フロアブル)
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指す)という通称)



特長

- 有効成分“エフィーダ® (一般名:フェンキトリオン)”を配合した3成分の混合剤です。
- エフィーダ®によりコナギやミスアオイなどの広葉雑草、ホタルイやコウキヤガラなどのカヤツリグサ科雑草が白化し、高い効果を示します。また、SU剤抵抗性雑草にも効果をします。
- ノビエ3葉期まで使用することができ、また、ピラクロニル配合により速効的に褐変・枯れ症状がみられます。
- 高い水稲安全性を示し、移植水稲では移植時から使用することができます。また、飼料稲栽培時にも使用することが可能です*。

*既存の4-HPPO阻害剤に感受性が高いとされる、やまだわら、とよめき、タカナリ、モミロマン、ミズホチカラ、ノビタキ、おどろきもち、ふくおこし、えみだわら、もみゆたかに対し、エフィーダは高い安全性を示すことを確認しています。WCSIについては別途、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルを確認の上、ご使用願います。

●豆つぶ250とジャンボは10アール当たり250gと軽量で、優れた拡散性を発揮します。

適用雑草及び使用方法

2022年10月26日現在の登録内容

*各有効成分を含む農薬の総使用回数:ピラクロニル2回以内、ピリミノックメチル2回以内、フェンキトリオン2回以内

1キロ粒剤 (農林水産省登録 第24063号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg	1回※	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫60日前まで			
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ	稲出芽揃期～ ノビエ3葉期 但し、収穫60日前まで			湛水散布

豆つぶ250 (農林水産省登録 第24073号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫60日前まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布、 水口施用又は無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ、ヒルムシロ セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽揃期～ ノビエ3葉期 但し、収穫60日前まで			湛水散布又は無人航空機 による散布

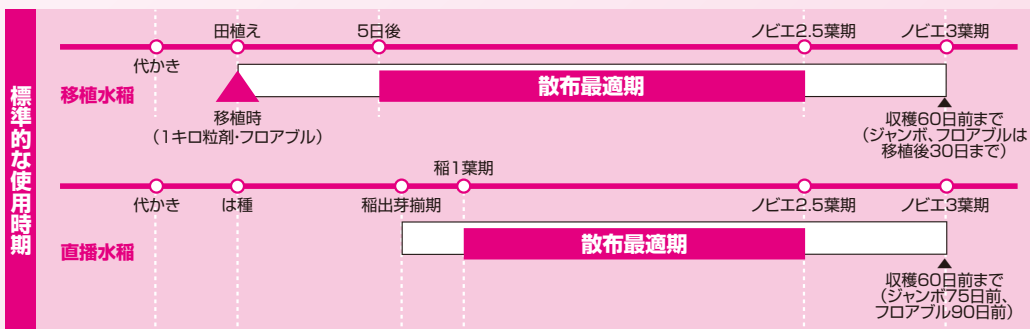
ジャンボ (農林水産省登録 第24074号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g)	1回※	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽揃期～ ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで			

フロアブル (農林水産省登録 第24154号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、エノノサヤヌカガサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500ml	1回※	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで			原液湛水散布 または水口施用
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲出芽揃期～ ノビエ3葉期 但し、収穫90日前まで			原液湛水散布

上手な使い方



■使用上の注意

【共通】

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なため、ノビエ3葉期までに、時期を失しないように散布してください。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ(豆つぶ250・ジャンボ)は発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないため、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。

【1キロ粒剤】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは3葉期まで、ミスガヤツリは5葉期まで、クログワイは発生前、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生盛期までが本剤の散布適期です。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

【1キロ粒剤・フロアブル】

- 直播水稲に使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるため、稲の出芽が揃わない場合は、稲の不完全葉期以降に散布してください。

【フロアブル】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ヘラオモダカ、エノノサヤヌカガサは2葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期です。

- 原液湛水散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)のまま水田全面にゆきわたるように散布してください。散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

- 水口施用の場合は、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。

- いくぞ栽培予定水田では使用しないでください。

【豆つぶ250】

- 湛水散布または湛水周縁散布に当っては、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

- 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布または水口施用を、本田内で田全面に散布してください。

- 水口に對して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけてください。

- 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合は濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早目に使用してください。

- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
○散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
○専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
○事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整してください。

- 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離してほ場に散布してください。

【豆つぶ250・ジャンボ】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミスガヤツリは5葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期です。

- 直播水稲に使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるため、稲の出芽揃期以降に散布してください。

【ジャンボ】

- 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な葉害や効果不足を生じるおそれがあるため使用はさけてください。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2022年10月26日現在の知見に基づき作成しています。 2218(22-11)